

予 算 決 算 常 任 委 員 会 記 録

1. 開催日時 平成 29 年 3 月 10 日（金） 午前 9 時 30 分
2. 場 所 第 3 委員会室
3. 出席委員
山根委員長ほか議長を除く議員全員
4. 委員外出席議員
なし
5. 欠席委員
なし
6. 執行部出席者
別紙のとおり
7. 議会事務局職員
永田局長・岡田次長・佐伯主任主事
8. 協議事項
3 月定例会本会議（2 月 28 日）から付託された事件（議案 1 件）
9. 傍聴者
あり
10. 会議の概要
 - ・ 開会 午前 9 時 30 分 延会 午後 11 時 40 分
 - ・ 審議の経過及び結果
(別紙のとおり)上記のとおり相違ありません。

平成 28 年 3 月 10 日

予算決算常任委員長 山 根 勇 治

記 録 調 製 者 佐 伯 加 寿 馬

山根委員長 おはようございます。本日の出席委員については委員17人であり、定足数に達しておりますので、ただ今から、予算決算常任委員会を開会します。最初に、委員並びに執行部の皆様に申し上げます。委員会において発言しようとする場合は、挙手をして「委員長」と呼び、委員長の許可を得てから発言していただくよう、お願いします。

それでは、8日に引き続き、議案第9号「平成29年度長門市一般会計予算」を議題とします。教育委員会所管の審査に入ります前に、平成29年度の教育委員会重点施策等の概要について、教育長からご発言をお願いします。

松浦教育長 それでは、平成29年度教育委員会の重点施策の概要につきまして、ご説明を申し上げます。重点施策の実施にあたりましては、本年3月に策定いたしました「第2期長門市教育振興基本計画」の基本理念であります、「生涯を通じて自らを磨き、ともに高め、『知』を育む」教育を中心に据えながら、諸施策を推進していくこととしています。まず、安全・安心な教育を支える教育環境の整備においては、計画的に進めてまいりました学校耐震補強工事が平成27年度末に耐震化率100%を達成し、28年度には屋内運動場の吊天井落下防止工事もすべて完了したことから、今後は、老朽化した学校施設の改修事業等を重点的に実施することとし、29年度は仙崎小学校のトイレ改修工事及び向陽小学校のトイレ改修工事实施設計、仙崎中学校グラウンドの改修工事や深川小学校の浸水対策工事等を実施します。また、28年度から順次導入していますタブレット端末をより効果的に活用するために、小・中学校のすべてのクラスに電子黒板を配置します。次に、学校教育では、「ながとに学び、未来に生きる」教育を基本方針とし、知・徳・体の調和がとれた「生きる力」を育む教育を推進します。そのための重点目標として、金子みすゞさんのまなざしや、感性を基調とした心の教育を展開する中で『子ども一人ひとりの確かな学力の向上』を目指し、子どもたちが夢や希望を持ち、明るく元気いっぱい活躍できるよう、コミュニティ・スクールや地域協育ネットの取組を加速させる中で、地域総がかりで子どもを見守り育てる環境づくりをすすめます。また、平成24年度から実施してきました防災教育推進事業では、29年度を本事業の最終年度と位置づけ、南三陸町から中学生を本市に招き、市内の中学生と防災に係る研修や熟議等を実施する中で、地域防災への理解を深めます。さらに、中学生海外派遣事業では、派遣先をアメリカから、山口県とも関係の深いベトナムのビンズン新都市に移し、派遣人数についても6名に拡大します。次に、生涯学習及びスポーツ振興では、「長門市生涯学習推進計画」や「長門市スポーツ推進計画」を基本としながら、「市民の学習機会の確保・充実」や「次世代への地域文化の継承」

に努めます。また、「スポーツ・ツーリズムによる地域活性化」の取組では、「第1回JAL向津具ダブルマラソン」や、2回目となる「ながとブルーオーシャンライド」などのスポーツ大会の開催、スポーツ合宿の誘致等により、更なる交流人口の拡大を図ります。これら施策の展開におきましては、子どもの目線を大切にしながら、あらゆる活動の中心に子ども達をすえ、子ども達がふるさとを愛し、将来、地域を支える人材として育ってくれるよう、長門らしい教育を展開してまいりたいと考えております。

山根委員長 それでは、教育総務課及び学校教育課所管について、審査を行います。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

檜垣教育部長 「第10款 教育費」につきましては、28年度当初予算16億1,319万6,000円に対して、29年度12億8,908万6,000円と3億2,411万円のマイナスとなっていますが、この主な理由といたしましては三隅中学校特別教室等の完成により予算が減額となっていることや、当初平成29年度予算で施行するよていとしていました仙崎小学校のトイレ改修工事につきまして、国の補正予算による交付金を活用して、前倒しで28年度12月補正予算で計上したため、平成29年度当初予算額が大きく減額となっているものでございます。その他につきましては、ただ今教育長が申し上げたとおりでございます。

山根委員長 以上で補足説明は終わりましたので、これより質疑を行います。ご質疑はありますか。

岩藤委員 おはようございます。予算書269ページの、先ほど説明がありました、「中学生海外派遣事業」192万8,000円についてなんですが、先ほどの説明で、ベトナムに変わった理由を述べられたんですが、もう少し山口県との関係が深いというふうなお話でしたが、ベトナムになった理由をもう少し深くお聞かせ願えたらと思います。

本田学校教育課長 まず、これまでの事業としては、中学生2名しか派遣できませんでしたが、より多くの中学生に機会をとということで、比較的安価で目的が達成できる場所を探しておりました。そうした中で、長門市が山口大学と包括提携を結んでおる関係で、山口大学のほうに相談に行きましたが、山口県がベトナムのビンズン新都市と協定を結んでいるということが分かりまして、ベトナムが候補地として上がってきました。そうした中で、現地のベカメックス社という会社が、これは国営なんですが、大学を持っているということ、宿泊施設を持っているということ、その大学が山口大学の学生を語学研修について実績を持っているということが分かりまして、また、JTB系列の旅行代理店がしっかりとした契約を結ぶことができるということが分かりましたので、ベトナムに絞って候補地として選びました。1人あたりの経費は、諸々含めておおよそ30万円で想定しておりました。そうすると引率を入れて7名で200万円近く

で事業ができるだろうということになりました。それから、大学での語学研修については、たとえばイギリス人であるとか、そうした外国人講師による実践的な研修を受けることができるということ、それから、テロの危険性がほとんどないということ、移動につきましては、貸し切りのジャンボタクシークラスでガイド付きで全て移動しますので、危険な地域を通ることはまずないということ、ホテルもかなり上質のホテルで日本人が安心して泊まれるようなホテルです。セキュリティもしっかりしているということ、それから、雨季も比較的落ち着いた環境になるということ、南部のホーチミン市とビンズン新都市が近くなんですけど、同じくその近くにフジミツの現地工場がございます。方角は南と北で反対になるんですが、1時間程度でホーチミン市から移動できるということで、プログラムについても、組みこみを検討できるということです。12月におそらく引率するであろうという指導主事を視察に行かせまして、フジミツの現地工場等も全部見学しながら、安心して子供たちを送り出せるだろうという担保もできましたので、最終的に決定しました。

岩藤委員 時期的な日にちと、滞在期間を教えてください。

本田学校教育課長 日程は8月20日、日曜日出発です。長門市に戻るのが8月28日、月曜日です。7泊9日間の研修になります。そのうち、語学研修は終日4日間、残りの3日間が移動、現地の中学生との交流、あるいはビンズン新都市、ホーチミン市周辺に、たとえばベトナム戦争の証跡記念館等ありますので、そうした文化や歴史を学ぶプログラムを考えております。少し強行日程にはなりますが、7泊9日を計画しております。また、8月20日以降ですので、中学生の3年生がほとんど部活動を引退しておりますので、参加しやすいと考えております。

田村哲委員 その中学生海外派遣事業ですが、これ当初予算の主要の概要によりますと、「中学生を海外に派遣し、実践的な英語を学ぶ機会や異文化との交流を提供すること」、「英語によるコミュニケーション能力や豊かな国際関係を養う」と。基本的には英語がメインテーマなわけですね。やっぱりそれはネイティブだろうと思うんですよ。費用の問題は、費用がかかるからベトナムにしたという説明的に聞こえたんですけど、ここはやっぱり僕はね、たとえばもつと違う、台湾でも英語がどんどん扱ってますよね。フィリピンなんかは元々アメリカの植民地ですから、英語はあれですね。韓国だってそうですし。違うところいっぱいありますよね。アメリカだってハワイもあるし。でしょう。だから経費の問題で変えたというのでは、ネイティブということの、できるだけ英語圏に近いところという形になれば、僕はベトナムの派遣というのは、悪いとは言いませんよ。悪いとは言わないけれども、何か腑に落ちない。おそらく市民の方はこの事業あんまり知ってないから分からない、ベトナム的には何でっ

て思いますよね。なぜベトナムかということの英語をやっぱりきちんと触れさせるということからすると、ベトナムは僕はちょっと弱いんじゃないかと思ってるんですけどね。ベトナムが英語教育に一番力を入れている国ですよとか、そういうことがあれば別ですけども。そのあたりどうしても腑に落ちない部分がある。どうか腑に落としていただきたいと思いますけどね。

本田学校教育課長 ベトナムにつきましては、今グローバル化が進んでいる国でして、第 1 外国語が英語です。中学生の英語力は日本人以上だと言われています。ですから、研修の中で現地中学生と英語で交流をする事業も入れています。そうした中で、おそらく自分達もしっかり話ができるということで、かなり刺激を受けるんじゃないかと考えております。それから、ベトナムの北部のほうについては、第 1 外国語を日本語をこの最近入れております。非常に日本とこれから密接に繋がるということ、英語についてもしっかり研修ができると。また、実践的な英語が学べるということを確認しておりますので、目的は十分達成できると考えております。

田村哲委員 これで終わりにしますけども、これ市の独自の判断ですか。それともベトナム、あるいはたとえば文部省とか、国なんかがもし相談した場合にベトナムが。日本だって第 1 外国語が英語でしょ。だからベトナムでなくて第 1 外国語って言ったらそんなに変わりゃせんのですよね。あそこは元々フランスの植民地でしょう。フランス語は公用みたいなところがあるんですよ。どうもそのあたりが何かしっくり。まだ半分くらい課長の説明で聞きましたけどね。

檜垣教育部長 2 年前までは、カナダに行ってみて、昨年度アメリカに行きまして、この間何年かやってくる中で、もちろん予算的なものもございしますが、一応 2 名しか派遣ができないということで、どうしても大規模と言いますか、市内の大きい学校に偏りがちでございましたので、どうにか全ての学校から最低 1 名は行かせられないだろうかという思いもございました。そのためには、やはりアメリカ、カナダよりももうちょっと近いところで、しかも英語が学べるということ、相談したのが、たとえば県とか山口大学でございまして、文部省まで関わったわけではございませんけど、そのあたりと協議を進める中で、ベトナムが候補地に上がり、かつ、ベトナムで十分に英語研修ができるということで、このような形で予算を上げさせていただいたところでございます。

田村哲委員 まだ腑に落ちん。もし予算のことであるならば、やっぱりスクラップ&ビルドじゃありませんけれども、ほかを削ってこっちに回すとか、そういうことはできるはずだとは思ってますよね。本当にこの事業が大事で、ネイティブのところに活かしたいと。カナダとかアメリカとかイギリスとか、そうい

うところに行かせてあげればね。オーストラリアでもニュージーランドでもいいですけど。そういうところに行かせたいというのであればね、僕は予算もちょっと増額して、2人しか行けないというんだったら、4人行けるようにとか、あるいは中学生をコンクールやってますよね。その受賞者を行かせるとか方法はいくらでもあると思うんですけど、そのあたりは今更言ってもあれでしょうから、ぜひまた今後検討していただきたい。これは毎年続けるつもりですか。来年も。そのときにはやっぱり次年度のときはしっかり考えていただきたいと思います。

重村委員 あまりこの件が長くなってもあれですけど、簡潔にいきます。2つ。今部長のほうから答弁がありましたけど、人選は各中学校から1名というのが基本と考えていいですか。

本田学校教育課長 これまでは希望者を教育委員会の中で選考しておりましたが、29年度以降は学校からの推薦に考えております。

重村委員 よく分かりました。あともう1点。今課長の答弁の中に、引率者が1名ということをお聞きして、私ちょっと不安に思ったんですけど。今までというのは2名ですよ。予算の関係もあるからたとえば引率者が1名というふうに考えられているのかもしれないですけど、1つは長期ということ、6名になると、男性・女性という生徒が募集してくる可能性も大にしてある。ということで、大切な子ども、何て言いますか、成功させるためにも、これはいたらないことかもしれませんが、私は引率者が1人というのが、どうなのかなというふうに思ったんです。現地に行くとガイドとかそういう方もいらっしゃるの、大丈夫なのかもしれませんが、そこらあたりというのは、もう一度検討する余地があるのではないかというふうなことを思っています。これはご答弁はいりませんけど。また事業をするにあたっては、1回考慮してみたいというふうに思います。

重廣委員 おはようございます。「小学校管理費」なんですが、説明資料の30ページにございます。項目としては、予算書の275ページというふうに書いてありますが、これはこの中の「校舎等整備工事費」の中に含まれているというふうに考えてよろしいのでしょうか。

小川教育総務課長 今重廣委員おっしゃいましたとおり、「校舎等整備工事費」の中に含まれております。

重廣委員 それでは、「深川小学校校舎浸水対策事業」、100万円ほど出ております。これもどこをどのようにされるのかということで、図面をいただきました。以前ですね、27年の8月の終わりですかね、その浸水被害のために中学校のテニスコートと深川小学校の校舎の間を、浸水工事をされていると思います。いくらお金をかけて。それから大きな被害等は聞いていないんですけど、この

度、擁壁のかさ上げをされるということなのですが、私は当時現場を見に行ったときに、先にこっちのかさ上げのほうが先なんじゃないかなというふうな提案はさせてもらったんですけど、校舎とテニスコートの水を止めたという、効果というのはどのように感じておられますか。

小川教育総務課長 テニスコートのところに、ブロック塀をしまして、浸水対策としたところですけど、その後、テニスコート側からの浸水がなくなりまして、平成 27 年 8 月以降、深川小学校への校舎への影響は、雨の影響はございませんが、横の水路があふれて校舎の、学校敷地内のほうに道路側から入ってくるというところはまだございました。ただ、テニスコート側からの浸水は、先ほど言いましたように、ブロック塀をした関係でなくなったところでございます。

重廣委員 こういうのは災害と申しましょうか、被害が起きたときには、僕は一斉にやるべきではないかと思うんですが、2 つに分けてやられるということは、予算が余ったからこの度、ここをしようという話になったのか、それとも最初からこういう計画であったのか、それだけ聞いて終わりにしたいと思います。

小川教育総務課長 この度の浸水対策についてお答えをいたします。平成 28 年度に深川小学校の浸水対策計画というものを業務委託をいたしまして、計画を立ててきたところです。その中で、深川小学校の浸水を食い止めるために、深川中学校のグラウンドに雨水を一時的に貯留して、一度に水が出ないようなことを考えてまいりました。それで計画をしましても、平成 27 年 8 月のときの雨には対応しきれないということも判明しまして、深川中学校のグラウンドを囲む工事費も、約 7,000 万円ほどかかるという試算も出たところでございまして、ほかに対応策がないかというところを探ってまいりまして、まず予算要求をしておりますが、深川小学校の道路側の壁を 20 cm 上げるところと、併せましてその道路に雨水の水路があるんですけど、そこの本管への繋ぎ込みの部分も広げるということで、水路の流量を確保すれば、深川中学校のグラウンドを囲んで対応するということと、ほぼ同じ効果が見込めるということになりましたので、この度深川小学校の道路側の壁のかさ上げというところを実施しようと考えておるところでございます。

重廣委員 先ほど最後にすると言いましたが。ということは、28 年度に計画を立てられてこういうふうにされたということは、この深川小学校校舎浸水対策としては、これで最後というふうに考えてよろしいんでしょうか。

小川教育総務課長 今計画をしております、浸水対策では、20 年に一度の降雨量については対応できるというふうな試算でございます。今後、どういう、自然が相手でございますので、大丈夫ですよということは 100%お約束はできるわけではございませんので、今後、場合によっては新たな対策が必要になってく

ることもあろうと思います。

先野委員 今重廣さんのほうから、27年8月の浸水の関係で話があったと思います。水路等水が溢れて、深川小学校が使えなくなったということで、夏休みに改修が入りました。今の答弁では、どの程度の雨だったら対応できる予定ですか。

小川教育総務課長 先ほど20年に一度の雨と言いましたけど、具体的には1時間あたり68mmまでの雨量については対応できると考えております。

先野委員 今の答弁では68mmまで耐えれると。前回の雨については100mm、それだけ降ったことがないだろうという雨の関係で、あそこが浸水しましたよね。今答弁の中で、グラウンドに水を溜めていろいろ実験をしたけど、多くの予算が7,000万円くらいかかるから対応がなかなかできにくいという話をされたと思います。もし起こったときの想定を、防災安心・安全の関係でしておかないと、もし何か起こってからでは遅いじゃないかなと私は思うんですよね。予算があるから、ないからの話じゃないと思います、これ。やっぱり子どもさんが、もし何かあったときに、予算がないから水が溢れて大変なことになりましたよってという答弁じゃ、僕はいけないと思うんですよね。やはり、その対応をするための予算を考えるのが、教育委員会ではないんですか。部長でいいですか。

檜垣教育部長 27年の8月25日でしたか、それこそかつて経験したことのない1時間に103mmだったと思いますけど、そういう雨が降りました。そのため、深川小学校につきましては、東側の校舎を中心に浸水したところでございます。言葉として安全・安心ということは当然でございますけど、1時間に103mmの雨が降りますと、そこだけを改修なり改築したからと言って、全てが片付くということは、ちょっと難しいんじゃないかと思います。雨ですので、高いところから低いところに流れますので、たとえば川に水が流れるような形が取れないと、どうしてもその部分に水が滞留するということがございますので、これを全て片づけるということになりますと、川から考えていく必要があろうかなと思います。今予算のことを言って申し訳ないんですけど、予算の中でいかに効率的にするかということで、私ども68mmまで耐えれる今のやり方を模索して、予算に上げさせていただいたところでございます。

先野委員 これ以上は言いませんが、浸水の計画を作られたということなので、別に課長、怒っちゃるわけじゃないんですよ。やっぱりそういう対策をぜひ計画を立てられたのであれば、対応しきれないけど、どね一かできんじやろうかっていうこともやはり、考えていかなければ、安心・安全がやっぱり、子どものことですから。私らとまた違いますし、小学生と言えばやっぱり足も遅いし、それだけ低学年になれば逃げることも遅くなります。ということもぜひ考えて、

今後また、雨が降るとは思わないみたいな話もされたんですけど。68mm 以上の雨が降ったときに、対応できるような方策をぜひ今後考えていってほしいなと思います。

吉津委員 予算書 273 ページの「小学校パソコン等整備事業」についてお聞きます。全ての小学校に電子黒板を設置する事業ですけども、これで整備がまだ残るところというか整備がされていない小学校というのが、あとどれくらい残っているのかというのをお聞きます。

小川教育総務課長 小学校につきまして、今電子黒板 15 台、2 個分の予算を上げておるところでございまして、現在、小学校におきましては、市内各学校、学年に 1 台はございます。と言いますのも、本年度の 11 月に市内の企業から小学校、学年に 1 台ずつ電子黒板の寄付をいただいたところです。学年に 1 台というところとございまして、1 学年に複数プラスある学校もありますので、公平性をきすために仙崎小学校と深川小学校でございしますが、ここも足りない部分の電子黒板を整備するということで、予算を上げさせていただいております。

吉津委員 「各学級に電子黒板の整備を行い」って書いてあるんですけども、学年に 1 つという感じでよろしいんですかね。

小川教育総務課長 すいません、言葉が足りませんで。仙崎小学校と深川小学校を除いては、学年に 1 クラスしかございませんので、各学年にあるということは、各クラスにあるということでご理解いただければと思います。

吉津委員 それと、何か細かいこと言うようであれなんですけど、中学校も同じ事業をやられているんですけども、黒板のリース、これ計算すると単価が違うんで、小学校と中学校でやっぱり電子黒板のグレードというか、そういうのが違うのかどうか、ちょっとお聞きます。

小川教育総務課長 小学校につきましては、先ほど申しましたけども、ご寄付をいただいた電子黒板、これに合わせようと思っておりまして、機種はこちらのほうは限定するような形です。中学校につきましては、まだ各クラスに 1 台というところまでいっておりません。学校に数台しかございませんので、これについては今後、機種のほうも検討していくということで、単価が違っております。

田村哲委員 予算書の 269 ページから 271 ページ「教育振興費」の最初の 1 つですが、「少年安全サポーター報酬」これ 28 年度からですね。私もいろいろ聞いてみると非常に評価が高いというか、評判がいいと言ったらおかしいんですけども、効果があるというんですか、というふうに聞いてはおるんですけども、これ教育委員会が少年安全サポーターを始めて入れてみて、どういう評価をされていらっしゃるのか、そのあたりをお聞きしたいのと、今これお 1 人ですよ。もっと広げる、いわゆる活動を広げるためには、人的増員が必要なのかな

という思いもあるんですけども、そのあたりも含めて、今後の考え方みたいなのがあれば教えていただきたいと思います。

本田学校教育課長 少年安全サポーターにつきましては、警察の OB を 1 名、28 年度から入れております。これまでは美祢・長門で県下の配置ということで 1 名おりました。ですが、長門を専門でやっていただける方も欲しいということで、1 名入れました。ですから今、2 名体制という形にはなっております。ですから非常のときには美祢市・長門市の県のほうからも応援があるということになります。また、学校訪問は何かあってからではなくて、日頃からいろいろな学校を訪問しながら子どもたちの様子、地域の様子、管理職と話をしながら情報を集めております。それから、防災避難訓練を含めて、そういう指導はしていただいているところです。学校のほうも非常に信頼が厚く、継続配置を望むという声がありまして、来年度以降も継続して配置をしたいと考えておるところです。

田村哲委員 その 269 ページの「教育振興費」の中で、「いじめ問題調査委員会委員報酬」と人件費として、あと「いじめ問題対策連絡協議会委員報酬」と。おそらくいじめ問題というのは、何か事業をやれば解決するというわけじゃないんで、僕は一番いじめの問題で一番大事なのは先生の感性だと思うんですよね。クラスの担任の先生の。山口市であるとか、あるいは震災いじめ、原発いじめと言われてる分でも、子どもたちは耐えているんですよね。ただそれを先生が取り上げない、気がつかない。そこにぼくはいじめの 1 つの大きな問題があると思うんですよね。そのあたりのいじめ対策について、今年度特にやりたいとかいうものが、この予算上、私気が付かなかったんですけども、ここにこういう事業がありますというのがあれば教えていただきたい。

本田学校教育課長 まずいじめ問題調査委員会につきましては、教育委員会付属機関として、設置するもので、もし本市に重大事態が発生したときに開くもので、今年度は幸いにも開くことはありませんでした。いじめの対策につきましては、今ご指摘がありましたように、まずは教員の人権感覚、感性、アンテナと言い換えたほうがいいかもしれません。これがとても大事です。それからもう 1 つは、校内できちんと情報が全体で共有されて、学校全体で解決にあたれるということ。また、必要に応じて教育委員会とも連携しながら、少年安全サポーター等も含めて対応するということが大事なところかと思います。併せて、やはり未然防止に対する取り組み、子どもたちの自発的な活動、それからやはり、日頃からの子どもたちへの必死度、これも大切であろうと考えています。今年度と大きく変わる事業はございませんが、やはり学校訪問等しながら、あるいは校長会、担当者会議においてしっかり指導してまいりたいと考えております。

田村哲委員 教育長ですね、このいじめの問題というのを非常に関心と言ったらおかしいんですけども、持っていらっしゃる。教育長のお考えを一言聞きたいと思いますので。

松浦教育長 常々いじめ問題については、今本田課長が申し上げましたように、人権問題の最たる 1 つの問題だというふうに認識をしております。従って、校内で発生をした場合は、とにかく発生をした時点で報告体制がきちんとなって、校長まで上がって行って、いじめ問題が発生した時点で校長の指揮下にすぐ入り込むという、そういう体制づくりでやってくださいというふうに、学校にはお願いをしておりますし、校長会でも指導をしております。従って、各学校市内は、いじめ問題という 1 つの感覚が出た場合には、今おっしゃったような訴えがあったとか、発見があったとかいう場合には、すぐさま校長の指揮下に入って全校体制で取り組んでいくという流れにしております。

田村大委員 予算書 277 ページになります。「中学校パソコン等整備事業」について、これ 273 ページの小学校のほうでも一緒なんですけれども、内閣府の調査で、パソコンデスクトップとかノートパソコンを持っていない児童、15 歳以下が、日本であれば 70%程度が持っていないと。アメリカ・韓国であれば 20%から 15%、ドイツ・フランス・イギリスでは 10%程度が持っていないということで、それ以外は持っているということになるんですけども、日本はそういう形で、ノートパソコンなりデスクトップを使った教育というか、環境が少し遅れているというふうに思うんですけども、こういった、パソコン整備によって、どのような教育を行われるのか、ご説明お願いいたします。

檜垣教育部長 どのような教育を行うのかと非常に難しい話になったんですけど、今の学校にパソコンがまだ十分に整備されていないという現状と、パソコンをする前にすでにスマホをここ何年間かは、そういう現状があって、最近若い人があまりパソコンを使えなくなった、たとえば市役所もそうなんですけど、職場に入ったときに、新入社員がパソコンを使えないという話を最近聞くようになりましたので、そのようなことがあっては逆にいけないなという思いの中で、昔でしたらたとえば中学生になりますと、ブラインドタッチというんですか、見なくてもパソコンが打てるというのが当たり前だったと思うんですけど、私は持ってないんですけど、こういう形でやられるのが主流になってきていることのでございますので、やはりパソコンをたたけるというのは、学校だけじゃなくて、社会生活においても、あるいは職場においても必要ですので、そのあたりがやれるような子どもたちを育成していきたいと思っております。回答になりましたでしょうか。

林委員 「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と言ってますね、ずいぶん恥をさらしてきましたけど、私も、この委員会。更に恥をかいてみたいと思いま

すけど。予算書 267 ページ「施設等解体撤去工事費」として、油谷の学校給食センターの解体撤去工事費が、教育委員会の所管で計上されております。今この財産区分というのは行政財産なんですかね。

小川教育総務課長 旧油谷学校給食センターにつきましては、行政財産のままになっております。

林委員 今回財政課が所管する中で、油谷中学校の屋内運動場の解体撤去工事費が盛り込まれています。それで私がちょっと疑義に感じたのは、用途廃止の手続きが、とっくに取られているのかと思ってたんですが、油谷中学校の屋内運動場というのは、用途廃止の手続きが取られて、普通財産になる。だから財政課が持っている。行政財産ということは、ずっと用途廃止が取られているにも関わらず、ずっと行政財産で持ってるっていう、そのへんの、どういう事務手続きでそういうことが行われるのかっていう、非常に疑義が生じてたんですよ。そのあたりの基準というのが何かあるんですか。たとえば三隅にも学校給食センターがありますよね。用途廃止になってる。それはおそらく、行政財産だと思ってる。そのへんの、いつの時点で普通財産にしたりとか、ずっと行政財産でずっと教育委員会が持っているっていう状態になってるわけでしょ。そのあたりの基準がちょっとよく分からないので、事務手続き上、どういうことになっているのかお尋ねしたいと思います。

光永財政課長 普通財産の管理は、財政課のほうになりますので、私のほうから答弁をさせていただきます。普通財産は、普通財産になった時点で、うちは原則売却等、自由に処分させていただくというものを普通財産で受け取ることにしております。従いまして、まだほかに用途目的、主要目的で行政的に使うというものであれば、またその見込みがある段階であれば、普通財産としては受け取りませんので、それが確実に普通財産、処分していいよというものについて財政課のほうで受け取っているという状況でございます。

林委員 そうすると、解体後には、当然さら地になりますわな。油谷の学校給食センターの跡地というのは。それはもう用途目的は普通財産で引き取るということなんですか。

光永財政課長 現在この解体後の利活用について、現在のところ、特に目的はないということも聞いておりますので、最終的に教育委員会等確認したうえで、特に目的がないものであれば、普通財産のほうに所管替えをするという手続きになろうかと思っております。

田村哲委員 この質問で最後になりますけども、275 ページから 277 ページ、「小学校費」「中学校費」の、去年の 3 月議会でもやりましたけども、小学校・中学校の就学援助費の問題ですね。これは教育委員会、学校教育課で一生懸命やっていたいて、制度的にはずいぶん充実してきたと思うんですけども、現状、

昨年の私の調査では、県内中でも非常に援助率が低かったと。これいろんな理由があるだろうと思うんですよね。いっぺんに解決しない問題も多いという形で、急激に上がることもないと思うんですけど、1年間やってみられて、就学援助費の支援率と言いますか、小学校・中学校いっぺんに聞きますから、お答えいただければと思います。

本田学校教育課長 まずこの5年間の就学援助の認定率は平均、長門市においては小・中合わせて11.15%です。26年、27年度は少しづつ高くなり、27年度は12.4%になっております。ですが、28年度は、現時点で約11.1%と1.3%程度下がっております。中学校の認定率は、13.1%と、27年度と大きな差はないんですが、小学校の認定率が1.7%ほど下がっております。就学援助率が伸び悩む理由は、はっきりお答えすることは大変難しいんですけども、まず、小学校の申請者数が27年度と28年度で比べますと、18件減っております。率にすると10%ほど申請者が減っているというところがございます。中学校はさほど変わりません。ですから、認定率も自動的に下がったということになります。申請者数が減った原因はなかなか分かりません。ただ、申請された方が全て認定されるわけではございません。祖父母との同居の関係で、世帯所得が多いために認定されないケースがあるということ、それと長門市は生活保護が3級地でありますので、最低生活保障水準がほかの地域と比べて大変低いということ。ですからハードルが高いということもあろうかと思います。周知におきましては、広報、特に小学校の入学児童につきましては、入学前と入学後に2回ほど通知をしております。保護者全に周知しておりますので、周知の努力はしておりますが、これからもこの周知についてはしっかりやっていきたいと考えているところです。

山根委員長 ほかにご質疑もないので、質疑を終わります。

以上で、教育総務課及び学校教育課所管の審査を終了します。ここで暫時休憩します。再開は10時35分からとします。

— 休憩 10 : 22 —

— 再開 10 : 35 —

山根委員長 休憩前に引き続き会議を始めます。

続いて、生涯学習スポーツ振興課所管について、審査を行います。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

檜垣教育部長 特に補足説明はございません。

山根委員長 補足説明はないようですので、これより質疑を行います。ご質疑はありませんか。

三輪委員 309 ページ「ウルトラマラソン開催事業」についてお聞きしますが、南野市長が 5,000 人規模の開催を長門市で行いたいと公の場で発言されて、7、8 年経つんですが、やっと来年度この事業が開催できるということで、関係者の方のご尽力に大変敬意を表すわけでございますが、今年の予算を審議するについて、ちょっと的が外れてると思いますが、将来的には、今年は 1,000 人だと。その程度の大会にまで成長させたいというふうにお考えでしょうか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 どの程度の大会までというふうなご質問でございます。今回の 1 回目の大会をやってみて、皆さんの評価も、ランナーの方の評価も出ると思います。そのへんでの考えも、アンケートとかも取っていくような形になろうかと思っておりますが、そのへんで対応して、担当者としては、大きな大会にしていきたいという考えは持っております。

三輪委員 これが開催されるにあたって、私も市民ランナーのはしくれとして、いろんな仲間と話をする中で、せっかく地元であるから出たいけど、ちょっと余りにもハードルが高すぎるというような声を聞きます。ぜひこれは言ってくれと言うんですが、せめて地元の市民ランナーが気軽に参加できるような距離も設定をしていただければ、それこそ南野市長が言われたような 5,000 人規模の大会に近づけるんじゃないかというふうに考えてます。当然今年行われて、反省も踏まえてのことでしょうけど、そういう距離の縮小の部分の設定とか、そういうふうなことはお考えでしょうか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 現時点では、この事業に全力を注いでおりますので、規模の縮小とか、現時点では考えておりません。今申されますように、やはり向津具と日置で行うというのも、国道を走らないという部分がございますので、平坦地での大会というのはなかなか難しいかもしれません。今回もウルトラマラソン系ということで開催しておりますので、今委員からいただいた意見も検討しながら対応していきたいと考えております。

重村委員 それでは 1 点だけお尋ねします。今三輪議員のほうからも質疑があって、この議会で一般質問を岩藤議員がされて、そしてスポーツツーリズムという観点から末永卓也議員が質疑をされてということで、このウルトラマラソンというのもスポーツツーリズムというところに関わってくるかと思えます。もちろんこの大会に参加することによって、山口県長門市というのがどんなまちというのを知ってもらい、持ち帰ってもらって発信してもらい。県内・県外にいろんなツールを使って、こういう大会があって、良いところだということを発信するというのは大きい目標だと思うんですけど、やはり行政がやるからには、私その裏に経済効果というのをきちんと見据えとかなないといけないと思うんですね。この大会を開くことによって、大きい目的はそこでしょうけど、経済効果がそれじゃあ果たしてどうなのか。1 年目ですからなかなか難しいところ

はあるかもしれませんが、この経済効果について試算を担当課として、多少なりとも持たれているのかどうなのか。これを1点お尋ねしたいと思います。

平川生涯学習スポーツ振興課長 もちろん今委員がおっしゃいましたように、この大会を開催するのは、あくまでスポーツツーリズムを主幹に置いております。お客様もウルトラマラソン系ですので、距離が長いと。お客様も宿泊していただけるのではなかろうかという効果も一番考えております。今言われたように長門市の良さに触れていただく。また、出品店とかエイドとかもございいますので、そのへんで長門の物品とかを販売、または提供していただくことによって、いずれセンザキッチンもできますが、そのへんの商品のほうも置ければ、そういうことでセンザキッチンのほうにも来ていただけるんじゃないかなというふうなそういう考えも持って、この事業を組み立てました。今おっしゃいますように、経済効果ということでございますが、当初900人の予定をしておりましたが、一般質問でも949人というお答えをしましたが、900人で予定しておりますので、宿泊は450人くらいかということで、日帰りも450人というところで、試算は数字は出してはおります。

重村委員 金額というのはおおまかには言えない。それっていうのが、1つ、やはりこうやって予算を付けて、ここにいらっしゃる方たちも手伝いとかいろんなところで、自分が走らなくても参加する人もいらっしゃると思うんですね。そのときにやはり、そういう数字というのが目的にもなるし、励みにもなるし、ざくっとした試算でもいいから、数字を持っていらっしゃるなら、僕はやっぱり胸張って言うべきだと思うんですけど、どうですか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 これにつきましては、埼玉県の統計の資料というか、それを基に試算しております。ただ、実情物価高とかいろいろなものがありますので、そのへんは参考にできない部分はありますが、一応、2,400万円くらいは経済効果として数字が上がっておるところでございます。

林委員 向津具ダブルマラソンについて、ちょっとお尋ねします。私、日置の駅伝で1.75kmをハアハア言って走ってる私からすれば、ここに出る人達ってどんな人達なんだろうという驚きもありますけれども。まず、ここに臨時職員の経費として185万4,000円が計上されております。この臨時職員さんというのは、何人で計上されていて、雇用期間というのはいつからいつまでなんですか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 この大会につきましては、大きな事業でございますので、課を揚げての取り組みになります。中でもスポーツ振興系のほうが2名の職員体制でございます。実際にはこれとは別に皆さんご存じのように、サイクルスポーツとかそういう取り組みを行う中で、2名ではどうも対応できるものではございません。そういうものもありますので、事務局のほうに1名臨時職員を置くということで、1年間の計上で数字を上げておるところでございます。

ます。

林委員 1年間。はい、分かりました。これも岩藤議員さんも一般質問で言っていましたけども、本当にスタッフ 400 人という形で。このスタッフというのは、何かあるんですか。たとえば年齢制限とか、スタッフの集め方とかですね。そういう、スタッフ 400 人という数字の根拠というかお尋ねします。

平川生涯学習スポーツ振興課長 400 人という数字の根拠ということですが、ウルトラマラソン、ロングだけでおそらく交通指導にあたられる方が 100 数十人はいると思います。それ以外にエイド、また、給水ポイントも別にエイドと一緒にのところもありますし、別に 5km ごとに設けるようなところもございます。そのへんでの人数がどうしても必要になってくると思います。また、スタート・ゴールについては、荷物の預かりとか、ゴールしたときの受け渡しとかいろいろなものが出てきます。それでざくっと見積もって 400 人くらいが必要ではないかというような考えで数字を出しております。

林委員 この問題についてこれで終わりにします。スタッフも非常に、初めての経験だと思うんですよ、こういう大会。しかも場所が市民駅伝とかというレベルじゃないと思うんですよ。このスタッフの要因というのを、募集か何かかけるわけでしょう。それはいつくらいまでを目途にかけて、当然そのスタッフはそれぞれの持ち分というのは当然あるかと思うんですよ。それについての説明とかもいろいろしないといけないと思うんですよ。この議会改選後もおそらく皆さん、善意で手伝ってくれるであろうと僕も信じてますが、そういったものも含めて、スタッフ要請についてのご見解というのをお尋ねしたいと思います。

平川生涯学習スポーツ振興課長 今スタッフ要請ということでございます。岩藤議員の一般質問の中でも、2 月 20 日から 4 月 14 日までの開催でということで、申し込み、ボランティアスタッフの募集を始めました。その中につきましては、各スポーツ競技団体が主になってくるのかなとも思いますので、そのへんにもお願いをしていきながら、文書を発送だけでなく実際にお願ひしていかないと人は集まらないと思っております。当日のボランティアと、5 月 21 日にコース全域の清掃等も予定しております。あと、当日はスタートブロック、ゴールブロック、コースブロック、エードステーションというような形で分けて、5 月中下旬くらいには、それについての説明会も開催するような予定としております。

田村大委員 ウルトラマラソンについてですけれども、6 月 11 日でしたか日曜日の開催になります。元乃隅稻荷神社ですけれども、昨年よりも観光客数増えていますよね。そのあたり、地元との調整と、観光課ともし連携があるのであればそれについてお願いします。

平川生涯学習スポーツ振興課長 地元での調整ということでございます。昨年の油谷と日置の自治会長集会のほうに、4月にありますが、そちらのほうに伺いをさせていただきました。自治会長さんのほうには、一応この形でということで、コースは、概訳でございますが、お示しして、全域での取り組みをお願いいたしますということでお願いをしております。それとは別に、昨年6月8日だったと思います、実行委員会の総会を開催しまして、その中にも地元の自治会長さん、向津具地区、日置地区の代表として自治会長さん等には参加をいただいております、その中でも一応説明しております。また、コースにつきましては今年も4月になりましたら自治会長集会がありますので、そのへんについては、自治会長集会での周知をする、また広報等を流して周知をしていきたいと思っております。観光課との連携ということです。今回の一般質問でも岩藤議員とも末永議員のスポーツツーリズムでも連携という言葉が申されました。観光課のほうとも連携を取りながら実施していきたいというような形で考えております。もちろん観光課のほうも、観光課というかコンベンションのほうがメインになろうかと思っておりますけど、そのへんとの連携を取って、より良い大会にしていきたいとは考えております。

田村大委員 同じ場所の話で申し訳ないんですけども、津黄の通過時間と安全対策についてお分かりになればお願いします。

平川生涯学習スポーツ振興課長 各競技で、津黄と特定していないんですけど、給水ポイントがございます。これが津黄の周辺になるわけですが、ダブルマラソンのほうが、あくまでも km 何分という計算上でございますが、ダブルマラソン、ロングのほうですね、こちらのほうが9時から12時半くらいが通過時間ではないかと。シングルマラソンのほうが、9時40分前後から11時20分前後ではなかろうかと。ウォークのほうが、10時半から12時、13時くらいではなかろうかと考えております。これにつきましては、混雑ということがあると思います。私どもは昨年からゴールデンウィークとか6月は土日現場のほうに行っております。お客さんの状況とかも確認しておりますが、やはり11時以降お客さんが増えてくるということで、ギリギリというか少し被るところはあるかもしれませんが、そのへんについてはどうにか対応できるのではないかと。昼からが一番多い時間帯になりますので、そのへんはどうにか対応できるのではないかなというような形は考えております。安全対策ということでご質問を受けましたが、岩藤議員からの質問にもありました。一例としては、千疊敷間の大型タクシーですね、そういうので回避をとったということも考えておるし、看板を設置と、それとインターネットで早くからこの大会6月11日にしますので、この日は混雑が予想されますのでというような形で周知を徹底していきたいとは考えております。

田村大委員 インターネットの告知周知というのは参加者目線だと思います。私のほうはどちらかというと観光目線と言いますか、観光バスと一般の乗用車が交錯するようなところでどうなのかということを伺ったつもりなんですけど、そのへんはまた、観光コンベンション協会のほうとも連携を取ってお願いします。もう 1 点なんですけれども、エイドを設置されますけれども、こういった大きなスポーツイベントって、民間のエイドが出ると思うんですよね。そういった設置について、何か基準であるとか、一切お断りするとか、そういったことはお考えでしょうか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 エイドにつきましては、大会本部側のほうからお願いをするような方たちがエイドのほうに出ていただくようになります。大会のメインエイドが千畳敷に置くんですけど、そちらのほうとスタート・ゴール地点、そちらのほうには有料のテントを置いて、業者の方が参加されるということもあろうかとは思っております。

田村大委員 オフィシャルのエイドについては地図で案内されておりますので分かってるんです。そうじゃなくて、民間の方がボランティアでというか、善意でエイドのようなことをされるじゃないですか。物の試食であったり飲み物であったりとかを提供されたりとか、水をかけてあげるとかですね。そういったものについては、何かご案内されているんでしょうかね。

大西生涯学習スポーツ振興課スポーツ振興係長 議員言われるのは、施設エイドのことじゃないかと思われましても、通常こういったマラソン大会で施設エイドは、その方々が善意で出されるようなものでございます。こちらのほうから出してくださいとかっていうものではなくて、こういったところで自分のできる範囲で、たとえば全員に配る飴はないけど 100 人分くらい飴を準備して配ろうかというような方が、善意でやっていただくものですから、こちらのほうから特にやってくださいというようなおすすりはしておりませんが、今後、そういったこともできるんだよっていう、知らない方もいらっしゃると思いますので、そういったこともできますよという施設エイドのすすめみたいなことも周知できたらなというふうに考えております。

岩藤委員 このウルトラマラソンの総事業費が 1,000 万円ということで、この補助金 350 万円の差額を参加費で賄うというふうに考えてよろしいんでしょうか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 そのとおりでございます。参加料が、現時点でだいたい 670 万円くらいがあるということでございます。

岩藤委員 これは参加された方に、参加賞とかを今から考えられるのではないかなというふうに思うんですが、やっぱり、たとえば下関であれば 10 年近くやられていますよね。昨年参加された方がスマホができる手袋とか、時期的に手

袋とかは無理なんですけど、そういった何か、こ洒落た参加の用品をですね、1回目からそういうふうなことを考えるのは無理かもしれませんが、そういうところで今考えていらっしゃることってあるんでしょうか。

大西生涯学習スポーツ振興課スポーツ振興係長 参加賞については、いろんな方からご意見をいただいております。ただ、いろんなこ洒落たものって言われましたけども、そういったものもいろいろ考えたんですが、やはり最初の大会でもありますし、一般的には T シャツのほうがいいだろうということで、今回は T シャツの方向で検討をさせていただいておるところでございます。また、よくマラソン大会等では、完走したら完走メダルというのが首からかけていただけます。そういった完走メダル等についても予算の範囲内でできないかということで今、検討しておるところでございます。

三村委員 関連ですけど、今向津具地域が、日置地域もですね、1日中走るようになりますから、地域住民の交通規制について、どういうふうに今考えておるのかお願いいたします。

平川生涯学習スポーツ振興課長 地域住民の交通規制ということでございますが、一応規制はかけません。一応注意をしてくださいということで、先ほども申しましたが、大会実施中の看板等、広報と、防災無線というか告知端末がございます。その告知端末を利用して、屋内での利用を、注意をくださいというような周知を努めてまいりたいと考えております。

三村委員 ではその次に、今の規制の問題もそうですけど、道の管理ですよ。6月11日と言われたけど、2車線の道についてはいいんですけど、宇津賀地域に入ると、5mの1車線であったり、日置の地域に入ると、かなりそれよりも狭い道を走るようになります。そういったときの周囲の草刈りとか、あるいは道の管理等について、どういうふうに考えているのかご返答をお願いします。

平川生涯学習スポーツ振興課長 今おっしゃるのは、道で草が出ておるからということであると思います。先ほども申しましたように、今年の6月12日が日曜日でしたので、直近の日ということで、一応試走を行いました。80km、85kmを走っていただくような方にも走っていただきまして、私どもも車で伴走しております。その中で感じたのは、あまり草のほうはなかったと。ただ今、委員がおっしゃいますように、草刈りについてはやはり、走っていただくので環境整備には努めていかなきゃいけないということで、日置と油谷の支所のほうにも対応していただきまして、会議を持つような形でしております。来年度どうするかということで、会議をするように、来週にはそういう会議を持つようにしておりますので、その中で対応していきたいと考えております。また、先ほど言いましたように、ボランティアのほうで道の清掃のほうも5月21日に開催するようにしておりますので、そのへんでも対応できればと考えております。

三村委員 最後になりますけど、一応道とか交通規制もさることながら、やっぱり選手が第 1 回目の大会ということで、走りやすい環境をぜひ作っていただきたいと思っております。それともう 1 件、往復のルートになりますから、特に宇津賀のところが僕は、ルート変更をこの前話したように、大畠から青村に抜けるルートが当初示されているルートなんですけれど、今の大畠のほうから中畑に抜ける道を入れていただいたら、ちょうど油谷湾のほうに出るんです。そしたらちょうど暮れというか、5 時、6 時頃の選手等がちょうど油谷湾の夜景というか夕日の環境が見られるということで、ルートの的にはすごくいいと思っていますから、そのあたりをご検討していただきたいと。これは私のお願いです。

田村哲委員 参加者の中で、県外の方がかなりいらっしゃる。説明を以前聞きましたけども、数字は忘れたけども。この方々は、宿泊とかは何か特別な手配、特別なメリットみたいなものはあるんですかね。

平川生涯学習スポーツ振興課長 一応大会当日はバスを出すような形で、ホテルとかは大会会場のほうまで送るような形にはしておりますけど。

田村哲委員 そういうことじゃなくて、ホテルに泊まる方っていうのは、北海道の方もおられたという話がありましたよね。市内に近くに泊まれないと参加できないということになりますよね。その泊まるときに、特別な優待とかホテルとも協定して、補助を出すとか、料金が安くなるとか、そういうことの対策はとっておられますかということです。

平川生涯学習スポーツ振興課長 それにつきましては、そういう対策というか、宿泊していただくためにこの大会を、先ほどスポーツツーリズムで大会を開催しているわけですから、そこまでのものは行っておりません。観光コンベンションのほうで入浴券とかの参加者への配布については考えていくというふうな答弁もあったと思いますので、そのへんについては少しはあると思いますけど、宿泊者に対する補助とかそういうのは行いません。

田村哲委員 ほかのことで。それでは村田清風記念館の改築事業のほうですけども、400 万円上がってます。明治維新 150 年を迎えるのは来年ですよ。だから 29 年が終わって本格的には 30 年ですね。それで、これはこれで大いにやっていただきたい。村田清風記念館の展示のやり替え、それはもう専門家というか知識の十分ある方をお願いしないでしょうがないんですけども、僕は思うのはこれだけでいいのかっていう話です。やっぱり村田清風は全国的にはマイナーだと思うんですよ。これをメジャーなものに持っていくというのは、明治維新 150 年が一番良いチャンスだと思ってるんですよ。ですから、ここにこういう本があるんですけどね、歴史を学ぶ地域再生－中国地域の経世家という、この中に村田清風も入ってるわけです。これは童門冬二さんという方が編集さ

れて、それぞれの執筆は担当の方が書いてるんですけどね。村田清風のあれは非常に勉強になりますし、すごい人なんだなって読めば読むほど思いますね。やっぱり市長も言われたけども、明治維新を作ったのは村田清風。その前の宝暦の改革というのがあるんですけども、村田清風のおじいさんの時代ですけどね。それから宝暦があつて、享保があつて、周布政之助の安政の改革、3段階にくるといことなんですけどね。そういうふうな、村田清風の重要性とか偉大さとか、これを全国発信できる方法を僕は考える必要があると思うんですよ。明治維新 150 年に合わせて。そうしないと県と一緒に 150 年祭をおやりになると思うんですけども、長門市は何かありますか。僕は 1 つは、この本の童門冬二さんと言ったら昭和 2 年の生まれですからもうお年寄りでお呼びをするのは無理かなと思ってるんですけども、どなたか講演をきちんとやるということもあるでしょうし、あるいは私が前から思ってるのは、全国的にはまだ無理ですけども、KRY とか TYS とか地元のテレビ、あるいは NHK さんも含めて。そういう 1 時間くらいの短編ドラマを作ってもらうとか、そういうことも含めて、やっぱり長門市の村田清風というのを全国に発信できる、そういうものをおやりになっては、考えられてはどうかというのが私の、村田清風記念館の改装工事をやるときに。そのためには、歴代の館長さん、大谷さんとか、今の現代の館長であるとか、ほかに地域の郷土史家という方はたくさんいらっしゃるんですよ。そういう方には知恵を結集してぜひそういう体制を今年度中にとっていただきたい。これは課長の答弁になるのか、部長あるいは教育長の答弁になるのか分かりませんが、そのあたりご答弁をお願いいたします。

檜垣教育部長 今、29 年度の予算では、模様替えということできさせていただきたいと思っております。平成 30 年がまさに維新 150 年でございますので、その年に何かできればということだろうと思います。私どもも、あの吉田松陰が師と仰いだ村田清風だよというふうな形で、29 年度の模様替えを考えていこうかなと思っておるんですけど、やはり村田清風を表に出すと言いますか、全国へ発信しようと思ったら、三隅だけでは弱いと思います。やっぱり萩と絡めることによって、村田清風さんをより世に知らしめることができるんじゃないかなと思っておりますので、そのあたりを何らかの事業で、30 年度やれるかどうかについては、内部的に検討をして、30 年度の予算要求のときには何らかの形で組み入れることができればいいかなというふうにイメージしているところでございます。

岩藤委員 関連でお尋ねしたいんですけど、展示パネル制作の改装業務なんですけど、いろいろありますよね。それで四白政策したところの展示室もあると思うんですけども、この度の改装業務というのは、あくまでも左側のほうだけと考えてよろしいのでしょうか。

平川生涯学習スポーツ振興課長 展示室両方でございます。国道の入り口に看板もございます。そのへんも絡めて少しインパクトのある、お客様が国道を通るときに目について寄っていただけるような形ということで考えております。展示室は今申されましたように、第1、第2展示室を絡めて改修していきたいと考えております。

重廣委員 「体育振興費」といたしまして、先ほどからウルトラマラソンの開催事業いろいろ質疑がございましたが、その下に「地域スポーツ人口拡大推進事業」というのも振興費の中にあります。ウルトラマラソンは先ほどありましたけど、これは事業主体が、向津具ダブルマラソン実行委員会ということで、350万円ですか。その下に「広域スポーツ推進事業負担金」そして、「大規模大会等誘致事業負担金」、そして「合宿等誘致事業費補助金」とありますよね。いろんな事業のときに、事業主体がそれぞれ観光コンベンション協会であったり、山口県ラグビーフットボール協会であったり書いてあるんですが、今全課を挙げてウルトラマラソン一生懸命やられているというのはあります。6月11日が終われば、課長の心にぽっかり穴が開くんじゃないかと。それくらい一生懸命やられているなっていうのはよく分かるんですが、ほかにも振興事業としてやられていますよね。私がなぜこういうことを聞きたいかと言いますと、事業主体が観光コンベンション協会であるから、ある内容を聞きに行ったときに、あれはコンベンションに聞いてくれと。コンベンションに聞きに行くと、あれは学スポに聞いてくれと。たらい回しにされるんですよ。いろいろ内容を聞くときに。今は同じ補助金として上げておられるウルトラマラソンは、課を挙げて一生懸命やっておられる。ただ下のことに関しては、たとえばこのサイクリングも昨年ありましたけど、ちょっと参加費が高いんじゃないかとか、いろんな話がありましたから聞きに行ったときに、あれはコンベンションに任せたからコンベンションに聞いてくれとか、そういう課と負担金、補助金を払っている団体のところとの関わり合いですよ。これをどのように判断したらいいのか、またどのように取り扱ったらいいのかという説明をお願いします。

平川生涯学習スポーツ振興課長 これにつきましては、県事業でございまして、県の交付要綱のほうで委託、または負担金ということになっております。原課のほうで事業を行わずに、観光コンベンションまたはラグビーフットボール協会のほうにお願いをしているというようなことでございます。今委員がおっしゃいましたように、内容につきましては、ほかのほうでも組みこんで、事業主体のほうと話をしておるんですが、最終的な実績についてはやはり、実績報告書が上がってこないと私どものほうも分からないというような状況でございます。今委員おっしゃいましたように、これにつきましては、末永委員の一般質問のほうでもありましたように、コンベンション協会、ラグビーフットボール

協会とか事業主体とも関係を密にしまして、そういう形で今年度、次年度は取り組んでいきたいと考えております。

山根委員長 ほかにご質疑もないので、質疑を終わります。

以上で、生涯学習スポーツ振興課所管の審査を終了します。

ここで説明員入れ替えのため暫時休憩します。委員は自席で待機願います。

— 休憩 11 : 11 —

— 再開 11 : 13 —

山根委員長 休憩前に引き続き会議を始めます。

続いて、都市建設課所管について、審査を行います。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

森野建設部長 歳出の「第 8 款 土木費」でございます。予算書は 234 ページから 255 ページになります。予算説明資料では 25 ページから 27 ページに記載してございます。予算額を 9 億 7,094 万 3,000 円とし、前年度当初予算が 14 億 7,060 万 9,000 円でございますので、比較しますと 34%にあたります、4 億 9,960 万 6,000 円の減額となっております。この減額の要因といたしましては、5 項の都市計画費、4 目の公園事業費におきまして、ながとスポーツ公園が 28 年度で完成しますので、新年度にはこの工事費を計上していないため、約 5 億 1,000 万円的大幅減となったものであります。新規事業といたしまして、1 つ目は、予算書 244 ページ、3 項「河川費」では、急傾斜地崩壊対策事業として、庁舎裏山の急傾斜地対策のため、測量設計業務に必要な予算を計上しています。2 つ目は、予算書 246 ページ、5 項「都市計画費」に計上しております「景観計画策定事業」でございます。本市の特徴的な自然景観や個性ある街並み景観の維持や形成を図るため、市内全域を対象にした景観計画の策定を 29 年から 30 年の 2 年間で取り組みたいと考えております。その他、継続事業として、予算書 240 ページからの「道路橋梁新設改良費」では、社会資本整備総合交付金、過疎、及び辺地対策事業債を活用して、市道整備や橋梁の改修工事を行う予算を計上しております。

山根委員長 以上で補足説明は終わりましたので、これより質疑を行います。ご質疑はありますか。

先野委員 予算書説明資料が 25 ページ、予算書が 241 ページの「社会資本整備総合交付金事業」についてお聞きします。今までの進捗状況、69 橋、長寿命化計画で直さなければいけないということですけど、今の進捗状況について教えてください。

宗村都市建設課長 平成 23 年に策定しました、長門市橋梁長寿命化修繕計画に

おきまして、先ほど委員さんが説明のように、69 橋の寿命化を行うこととしております。平成 28 年度までに 14 橋の補修を行っておりまして、進捗状況といましては、20.3%となっております。

先野委員 計画どおりに進んでいると考えてよろしいですかね。

宗村都市建設課長 予算等の計画どおりには、修繕は行っておりません。と言いますのが、補修等につきましては、多くの費用がかかるため、かなり遅れている状況でございます。

先野委員 遅れているということなんですけど、10 年で補修・修繕をしていくことにしているということで、長門市橋梁長寿命化修繕計画では、69 橋の予定みたいなのを書いてありますが、遅れているということで予算的に難しい部分もあると思うんですが、その点を含めて今後の見込みについて教えてください。

宗村都市建設課長 こういった長寿命化にかかわる事業につきましては、社会資本整備総合交付金の中の防災安全交付金を活用しております。しかしながら、交付金が要望通りに交付されない状況にありまして、整備に必要な予算が確保されない状況であります。今後も財源を確保するために要望等重ねていくように考えております。

先野委員 続けていいですか。予算書のページが「土木費」の「6 項 住宅費」「040 空き家対策事業」です。これ前年度も 200 万円の予算が上がっています。今回も 200 万円上がっていますが、見込みとしてはどういうふうな形でしょうか。

宗村都市建設課長 28 年度におきましては、同じく 4 件分の 200 万円を計上しておりますが、2 件の利用でございました。問い合わせ等もかなり多いことから、29 年度につきましても 28 年度と同じく 4 件分の 200 万円を計上しているところでございます。

先野委員 今市の全体で管理不全の空き家の棟数と全体で何戸あって、今の状況がどのようになっているのかお伺いします。

宗村都市建設課長 28 年度の空き家に対する情報が 27 件ございました。そのうち、管理不全空き家に該当するものが 11 件ございまして、そのうち 4 件が解体にいたっております。先ほど申しましたが、そのうちの 2 件が補助を使った解体となっております。

先野委員 全体でって言ったんよ。全体で何戸あって管理不全なのか。今どのような状況かって言ったんですけど。

宗村都市建設課長 25 年度より集計を取っておりまして、全体では管理不全空き家が 51 件ございまして、そのうち 18 件が解体されましたので、残り 33 棟が管理不全空き家として残っている状態でございます。

先野委員 今 33 棟っていう話をされました。これ所得制限がありますよね。所

得が 250 万円以下の人でないと制度が使えない、補助制度が。管理不全の空き家でないと難しいという部分があります。このことについて、課としてどのように考えて、今後、今空き家が 33 件あるって言われたんですが、手つかずで難しい部分もけっこうあると思うんですよね。指定はしちゃいけないけど、いろんな部分にそういうものがあって、撤去できないから困っちゃうっていう話もよく聞くんですよね。武田議員からもそのような話があったんですが、この件について今後どのようにしていかれるのかお伺いします。

宗村都市建設課長 現在所有者の特定をして、文書による勧告なり、電話等により直接お願いをしているところでございます。中には所有者も特定できない方もいらっしゃるんですが、そういった方を重ねながら安全面につきましては、コーンとかバリケードを設置して安全面を図りながら解体に向けて努力しているところでございます。

重村委員 予算書が 251 ページ、「地籍調査費」「010 地籍調査測量・設計・登記等委託料」ということで、6,375 万 7,000 円が予算計上されています。先日俵山地区でいよいよ、俵山の小原から下関の豊田町に抜ける道というのが国交省から、初めて地元説明会ということがあって、説明を聞く限りでは、国交省としてもできるだけ早くというニュアンス的に非常にありがたいお話が俵山地区の方々にありました。そのときに、地籍調査が全く終わっていないルート体のために、長門・俵山道路のように地籍調査を部分的にですけど、通るであろうと思われるところだけ地籍調査を済ませてということと同じようにやっていきたいということですが、この地籍調査料の委託料は、全てその部分に充てられるのか。それとも、俵山道路に関する部分というのが 6,375 万円のうちのおいくらなのか。それをちょっとお尋ねしたいと思います。

宗村都市建設課長 6,375 万 7,000 円のうちには、俵山地区で行います、現地調査分と、28 年度に行いました長門地区、日置地区の原図作成や地籍測定業務も含まれております。先ほど質問されました、俵山地区での地籍調査の業務費といたしましては、5,972 万 4,000 円を計上しております。

重村委員 これは国との事業も絡むことですが、旧長門市ですよ、新長門市の一市三町、旧で言うことです。その中の旧長門市が非常に地籍調査が遅れていると。今回の場合、終わっていないところを、多分通るであろうと国交省が言っている周辺だけを地籍調査を済ませて買収とも絡むことだからということでやられると思うんですが、この地籍調査が終わっていないことによって、この道路の振興に妨げとかそういうものが、それは行政としてはあるかないのかっていう判断はされてますか。

宗村都市建設課長 俵山・豊田道路につきましては、28 年度に新規ということで、担当しております、山口河川国道事務所とそのへんことは事前に調整し

ながら進めておりますし、今回においても調査がかかる前から地籍のことについては調整をさせていただき、早いに越したことはないんですけど、進捗には遅れが出ないような調整をしているところでございます。

末永委員 予算書の 247 ページ「景観計画策定事業」ですけれども、この計画策定業務委託料の積算根拠をお願いします。

宗村都市建設課長 策定業務につきましては、見積もりを参考に算定しております。

末永委員 説明書を見ると、「湯本俵山地区を重点地区として市内全域の長門市景観計画を策定する」とありますけれども、この計画というのは、都市建設課でできないものなんですか。委託しないとできないという何か理由はあるんでしょうか。100 万円かけて。

福田都市建設課都市整備係主査 まず景観計画なんですけれども、重点地区のことについてなんですけれども、区域については主に一般地区と重点地区に区分されまして、重点地区についてはその名のとおり重点的な取り組みをしていくという地域になっておりまして、こちらの設定は任意となっております。重点地区に設定すれば当然ルール等も細くなり、規制等も厳しくなるものというふうになります。その中で、業務の策定においてなんですけれども、まず市民アンケート、色彩調査、関連計画の整理、主に策定委員会のほうをやりまして、地元にもワークショップのような形で入っていくようになります。そして1年目の年度末には、素案の作成まで行う予定としております。その中で専門的な業務として、色彩調査の実施であるとか、その他ワークショップの運営の持っていく方とか策定委員会の補助とか、そのあたりを主な委託の内容として考えておるところであります。関連計画の整理とかその他職員のほうで実施できるものは実施していくわけなんですけれども、色彩調査とかその他専門的な部分については、委託のほうに出してお願いしていくということを予定しております。

末永委員 色彩ということは色ですよね。テーマの色を決めるとかっていうことだと思うんですけど、その色はやっぱり専門家でないと決められないものなんですか。

福田都市建設課都市整備係主査 色彩というのは、主に、分かりやすい例で言えば、建物の外壁の色であるとか、広告主であれば看板の色とかそういったものになってくるんですけれども、そこをたとえば細かい基準を設定しようとした場合、たとえば同じ赤色なら赤色で色にはマンセル値という数値がありまして、その数値を単位で細かく、ここまでは控えていただくとか、許可の基準ではないですけど、そういう基準になるような数値というものが出てきます。その事細かい部分によっては、専門的な意見を取り入れながらやっていく

いというふうに考えております。

末永委員 それに関しては都市建設課ではできないという認識でいいですね。分かりました。

田村哲委員 どうも分かりません。これ事業概要に湯本・俵山を重点地区と書いてありますけども、やっぱりまち並み整備とか景観となった場合、仙崎がどうして抜けているのかというのを、ちょっと気になるんですよ。仙崎は仙崎で今いろいろなプランが入っていますから、それで外したということも考えられないことないですけど、執行部の説明をお聞きしたいということと、それから湯本については、今湯本もいろいろ事業入っていますよね。星野さんの関係で。これとの関係ってどういうふうになるのかですね。まちづくりはまちづくりでどんどんやっていけるけれども、景観は景観でまた別に作るのか。何かもったいないような気がしますよね。そのあたりをご答弁いただければと思います。

宗村都市建設課長 仙崎地区についても重要な景観の一つとっております。今代表的に言われているのが湯本温泉と俵山温泉を含む地区として上げております。今から 2 年かけて整備する中で、もっと大事なところ、棚田も含めていろいろあると思いますが、そのあたりで重点的にすべきということであれば入れていくことにする予定にしております。湯本地区につきましては、現在景観計画、地区だけの景観計画ということでしていますし、29 年度にはデザイン会議等が発足されまして、その中でデザイン計画を進めることとしております。そのあとに全体として長門市の景観計画を策定するようにしております。

重廣委員 これは景観計画策定ということなんですが、将来的に景観条例というところまで持って行かれるものなのか、当然それには市民の周知と、了解と、またワークショップ等たくさん開催しなければならないというふうに思っておりますが、私も今この中になぜ仙崎のまち並みが無いのかなってという疑問もあったんですけど、将来的にですよ。これは今 2 年で計画を作られるということなんですが、条例となるとなかなか難しい面があるかもしれませんが、どういうふうな方向で持っていきたいと考えておられるのか、説明を。

福田都市建設課都市整備係主査 今長門市全体の景観計画として 29 年度、30 年度の 2 カ年で予定しておりまして、順調にいけば平成 31 年の 3 月に完成する予定となっております。条例につきましても同時並行で調整をしていきまして、2 年間で計画を作りまして、平成 31 年 4 月の施工を目指して準備を進めていく予定であります。

武田委員 それではお疲れ様です、簡単に聞きます。予算書の 249 ページの「ながとスポーツ公園維持管理費」、施設管理委託料として 442 万 4,000 円上げられていますけれども、まず委託先と、委託料ですよ。これが管理費として 734

万 7,000 円上げられていますけど、こういうスポーツ公園的な施設っていうのは、旧三町も持ってましたよね。三隅もあるし、日置にもあるし、油谷も今度ウルトラマラソンのスタートゴール地になる。ああいうところの管理費というのが、なかなかこの予算書では出てこないけど、それと比較したときの金額というものをどう考えているのか。その 2 点を合わせてお伺いいたします。

福田都市建設課都市整備係主査 まず委託についてなんですけれども、予定通り今年度末を持ってスポーツ公園完成することとなっております。来年度早々に、委託契約をして、施設管理を行う必要があることから、今予算成立がなければ契約には至らないという前提のもとで調整を進めているところであります。相手についてなんですけど、今ちょっと予算成立前ということもあって、契約ができない状態でありますので、ちょっと今は公表のほうは控えさせていただきたいと思います。維持管理費全般についてなんですけれども、施設の利用受付をはじめ、清掃とか草刈り等の維持管理業務を施設管理委託料として、442 万 4,000 円計上しております。その他この施設は浄化槽等を持っておりますので、浄化槽の維持管理委託料とか、あとはグラウンドゴルフ場とか芝生広場を天然芝で持っておりますので、その部分の維持管理、河川と山に隣接しております、法面等については、直営での草刈りができませんので、その他草刈り等の業務委託料を緑地管理環境委託料として計上しているところであります。全体の維持管理費としましては、734 万 7,000 円かかっているところで、昨年においてもどのくらいの維持管理費がかかるのであろうかというところの質問をいただいているところであります。今都市建設課が所管している、長門市総合公園につきましては、テニスコートを含めまして、約 1,000 万円程度の維持管理費がかかっているところであり、同額の予算がかかるもので、経費がかかるものではないかというところで想定をしておりました。一概に他の市内の施設との比較のうえでは、公園の規模等、差がありますので、これが高いのか安いのかと言われれば、なかなか比較はしにくいところではありますけれども、こちら管理するほうとすれば、ほぼ予定の範囲内で収まっているものというふうに考えております。

武田委員 大きさもあるしということで、一応比較はされているんですよ。たとえば三隅のふれあいパークとか、油谷の運動場とか、そういうものとの比較は一応されているんですよ。

福田都市建設課都市整備係主査 今比較という質問が出ておりますけれども、直接的な比較はいたしておりません。

武田委員 これで終わりにします。私 1 回一般質問したんですよ。三隅のふれあいパークの維持について。そのときにこのスポーツ公園を作るのは、作るなとは言わんけど、あとの維持管理が大変だよ、実際覚悟しちよるかっていうよ

うな話も一般質問したんですよね。その後毎年、734万7,000円というのは予定としてだいたいこのくらいの金額は上がってくると考えていいんですかね。これでもう十分管理できると。そういうことなんですかね。

福田都市建設課都市整備係主査 初年度ということもあるんですけども、今想定される経費については全て計上しております。新設の施設なので、大規模な修繕等そういうものは一切考慮しておりませんので、通常の維持管理をしていくにあたっては、この程度の予算が必要になるというふうに考えております。

山根委員長 ほかにご質疑はありませんか。ご質疑もないので、質疑を終わります。

以上で、都市建設課所管の審査を終了します。

本日の審査は、この程度にとどめ、この続きは、15日、午前9時30分から審査を行います。なお、15日は、本日までの質疑を踏まえ、市長に対しての総括質疑と討論及び採決を行います。

また、総括質疑の通告締切は本日の午後5時までとしていますのでよろしくお願いします。

本日は、これで延会します。どなたもご苦労様でした。